

津波浸水想定シミュレーションの結果について

市では、平成23年10月31日に策定した復興計画の付属資料（土地利用方針）で、津波浸水想定区域を示しました。

そして、市民の生命を守ることを最優先として、「避難する」ことを軸に、避難対策や防災施設の整備を組み合わせた多重防災型の津波防災対策の考え方に基づいて、「安心して暮らせる市街地（集落）の形成」や、住宅の高台移転などを基本とした「安全な住宅地の形成」に向け、復興事業を進めてきました。

このたび、国による大船渡湾の湾口防波堤の構造や、県による防潮堤の施設の配置に係る海岸保全施設の計画検討を踏まえた上で、防潮堤の高さなどが示されたことから、市では、土地利用に向けた最大クラスの津波を対象とした津波浸水シミュレーションを再度実施しました。

再シミュレーションに基づく各地区の浸水想定区域は、平成24年11月20日発行の広報大船渡「復興特集号」において、浸水の深さごとに色分けした図面を掲載しています（海岸堤防の計画が変更になった場合などは、浸水想定区域が変わることがあります）。

今後、市ではこの浸水想定区域をもとに、災害危険区域（建築基準法第39条）の設定を行う予定です。

○シミュレーションの設定条件

1 対象津波

湾ごとのこれまでの最大津波を引き起こした地震をもとに、朔望平均満潮位での津波を再現

※朔望平均満潮位＝新月及び満月の日から5日以内に現れる、各月の最高満潮面の平均値。

2 海岸保全施設の設定

| | |
|-------|-------------------|
| 大船渡湾 | 新たな環境対策型の湾口防波堤の形状 |
| | 県で計画した防潮堤の高さ |
| その他の湾 | 地元説明会で決定した高さ |